



座談会

「i」に込められた
3つの想い

- ・「私(i)」の想いを語る
- ・「今(i)」の想いを語る
- ・「飯(i)南町」で想いを語る

先月も取り上げた座談会。参加者からは「話しやすい雰囲気の中、いろんな人とざっくばらんに話せた。自分の考えに共感してくれる仲間に出会えた。今後もこうした機会を設けてほしい」などの声がありました。

今月は「教育・人財育成」と「産業振興」をテーマに開催した座談会の様子を取り上げます。

教育・人財育成

「地域に必要な人財」

10月18日(金) 19時〜 ふれあいホールみせん

この日の座談会には、20代から70代まで幅広い世代27人が参加。4つの必要な人財が提案され、想いが語られました。

地域のリーダー的人財

地域住民一人一人の意見や力を引き出せる人財が必要になってくる。人財が育つために、まずは想いや意見を言える風通しの良い話し合いの場が大事なのでは。

町内には話し合いの結果、若妻会今は休止中だけとTEAM下来島などのグループができ、「何かにチャレンジする勇氣」と「楽しい」が生まれている元気な地域がある。昔は誰もが頼るリーダーが一人いれば地域が回っていたが、これからはそうではない。

産業・起業人財

起業への想いを秘めながらも、リスクを第一に考えて、起業に踏み出せない人が多くいる。そういう潜在的起業家のための勉強会があれば、誤ったリスク認識が軽減され、起業へのハードルは下がらず、また起業する上で出資

者・賛同者は不可欠。その仲間づくりの場が必要ではないか。**結婚・子育てに関わる人財**

地域の活力は野山に響く子どもの声。でも最近子ども数の減少が続いている。近年結婚しない男女が増えてきたことも考えられるが、純粋に男女の出会いの場がないのも要因ではないか。

出合いの場を婚活イベントとして行政がセッティングするのはなく、若い男女が勝手に集まるスポーツや文化活動をするような場が必要だと思ふ。

農業を守る人財

米価下落など農業を取り巻く環境は厳しく、農業は稼げないという負のイメージが蔓延している。農業を守る人財は後継者を地域に輩出していくには、稼げる農業に変えていく必要がある。トマトなど高収益作物への転換、農地や設備を持たない方への金銭的支援などの取り組みをさらに推進してはどうか。

産業振興

「米」「林業」「商工」「観光」「畜産」

10月31日(木) 19時〜 赤名農村環境改善センター

この日の参加者は37人。予想を超える人数だったため、急遽大きな会場に。5つのグループで参加者一人一人が想いを語りました。

米

飯南町の農業の現場では、50代後半から70代前半が主力。高齢化で維持管理が負担になり耕作放棄地も増えている。ほかの農作物で収入を増やすことも、ノウハウの不足やコスト面で難しいのが現状。飯南米に適した水稻栽培法と市場価値の確立が求められる。

また、若い世代を育成する施設や支援環境、各地域・各農家間で農業機械はもちろん、人財や技術をお互いに補うネットワークが必要ではないか。

林業

木材の低価格、若者の山への関心の低さなどで、山が利用されなくなった。今、竹林などで荒れた山が増え、鳥獣被害も増えている。

飯南町の子どもたちは思いのほか山を知らない。山への関心が戻れば、山が手入れされるきっかけにもなり、そこからクロモジの活用などが増えるかもしれない。まずは学校林や森の学校などで、子どもたちに山を知る機会をつくってみてはどうか。

商工

飯南町の商工を発展させる上で、生産者や企業の悩みは商品化のアイデアと販路確保。特にアイデアは、高校生や大学生をはじめとする異世代と交流の場を創ることで、多様なアイデアが生まれるんじゃないか。

小さな町だから、はみ出すと目立つ。でも、新たなことにチャレンジできる土壌はある。一歩踏み出す勇気があれば、現状は変わるはず。

観光

瀬戸山城跡で開催されたイベント「天空の朝ごはん」には、県内外、遠くは奈良から約50人が参加した。三瓶山などでも開催

待っている人も人は来ないし、地域にお金は落ちない。まずは自分自身が人を呼ぶために動く。1000枚のチラシより口コミ。リピーターが生まれるきっかけは人と人のつながりだ。

畜産

牛を飼うための酪農ではなく、生活するための酪農。そもそも酪農を始めたきっかけは上り島安江で酪農が盛んだったから。安江で酪農が盛んだったことか知らないでしょうか。

この年になると、若いもんは昔話をする機会も減ってきた。これまでの歴史を後世につなぐのは、人と人のつながりだし、つながる機会が必要だと改めて感じた。

想いを行動、そしてカタチに

4回の座談会を通して、住民の皆さんから「カタチにしたい想い」として多く聞かれたのが「つながる機会場の創出」と「町内外の人に届く情報発信」。

座談会の企画・運営に携わる若手職員チームでは、皆さんの想いを受け止め、来年度の予算編成や総合振興計画へ想いを反映するため、話し合いと提案に向けた準備を進めています。住民の皆さんや地域だけでは実現できないことがあります。同じように行行政だけではできないこともあります。座談会で生まれた想いは、片方の想い、力だけでは実現できないことの一つ。住民の皆さんの想いやアイデア、つながりを、行政も一住民としてワクワクするまちづくりにつなげていければと思っています。

座談会を住民一人一人が想いを語る、新たなカタチが生まれる場へと。そして、皆さんの想いが実現し、ワクワクするまち飯南町に。一緒に始めてみませんか？想いの実現。